

将来の夢

御津北部小・6 山本 優那

私には、将来の夢が無い。よく大人に、「優那ちゃん、将来何になりたいの。」

と聞かれるが、すぐに答えることができない。妹はすぐに、「ユーチューバー。」

と答える。まだ小さい妹でさえ、小さいときからの夢が変わらずにある。

初めて困ったのが卒園のときだった。将来の夢の発表があったからだ。家に帰って、すぐ考えた。何になりたいのだろう。まだ分からない。すごくなやんだのを覚えている。お母さんに聞いた。お母さんは将来何になりたかったのか。お母さんは、お母さんになりたかった。夢をかなえている。そのときに、まだなりたいものが無かったから、私もお母さんになりたいと発表した。友達は、保育園の先生やユーチューバー、アイドル、野球選手、プログラマー、おかし屋さんと発表していた。あのときから数年たったが、まだ自分が何になりたいか分からない。よく友達に、

「優那ちゃんもお母さんと同じ仕事にするの。」

と聞かれる。分からない。お母さんに仕事のことを聞いてみた。大変なのは、どの仕事も変わらない。好きであることと、興味が無いと続かないのが仕事だ。大変なのは、どんどん新しいことが増えていき、日々勉強もするし覚えることもたくさんあることだ。でも、

人に感謝されるやりがいのある仕事だ。また考えた。やりがいのある仕事ってどんなものだろう、と。そもそも、私の好きなもの、興味のあるものはなんだろう。私の好きなことを考えてみた。ピアノ、アニメ、おしゃれ。ピアノはずっと続けてやっていくが、将来仕事にしたいかと言われると、分からない。分からないまま、小学校六年生になった。

夏休みに入って、プリントの整理をしていたら、一年生のときから今までの学年通信が出てきた。なつかしくなって見ていたら、一年生の最後の学年通信で担任の先生がクラス全員に一人一人メッセージを書いたプリントがあった。内容は、みと北祭りでやったキラキラ星の指揮のことが書いてあった。一年生のときのことだから忘れていたが、自分から指揮者をやると言い出したものの、リズムやはくのとり方が難しかったことを覚えている。あのときは、リズムもはくもピアノで経験しているからだいじょうぶだろうとあまく考えていたが、実際にやってみると先生のピアノの音、みんなの楽器の音、全員の前に立って指揮をすると足がふるえたのを思い出した。私が失敗すると曲が止まってしまうため、何度も何度も練習した。失敗して泣いてしまったこともあった。本番前日の夜まで練習を続け、本番で上手に出来たときの気持ちを思い出した。コメントには、「何度も何度も練習したキラキラ星、強い心が素敵だよ。経験が宝物。」と書いてあった。このコメントを見て今までの私の経験を考えてみた。

そうだ。この六年間でいろいろな経験をした。ひけないピアノ曲をくやしうて練習した日々、友達と過ごした日々、友達とけんかをして仲直りした日、友達が転校すると知って泣き合った日、家族で

過ごした日。私にはたくさん経験があった。これからもたくさん経験をする。

今、将来何になりたいか決めなくてもいいのだと気づいた。周りが決めていてもあせらず、私は私でこれからゆっくり探していけばいい。ときにはぎせつしてしまうかもしれない不安もある。しかし、今を大事にし、何事にもチャレンジ、何事にも感謝の心をもって行動できる自分でありたいと思った。

将来なんてまだ先のこと実感はわかなかつたが、これからもいろいろな経験を重ね、なりたい自分になれたらいいと思う。まだ先だと思っていたが、もう六年生。あと半年で小学校生活が終わる。友達や先生、家族と過ごした六年間。これこそが、私にとってすごく幸せな宝物の経験だ。